

丹波市豪雨災害

復興へのあゆみ

平成26年8月16日、丹波市を襲った記録的豪雨。丹波市にかつてない甚大な被害をもたらしました。豪雨災害から1年。多くの方々と共に歩んだ日々を振りかえります。

八日市橋の開通式。
災害から1年を目前に控えた8月12日、八日市橋が開通し、復興への大きな一歩を踏み出しました。丹波市にまたひとつ日常が戻ってきました。
参加した被災者からは「日常がありがたいということを感じた」との声が聞かれました。

昨年8月16日、丹波市豪雨災害でおひとりの尊い命が奪われました。心から哀悼の意を表します。1年が経過した今なお、避難生活を余儀なくされている方々をはじめ、被災された多くのみなさまに改めてお見舞い申し上げます。

災害から1年を振り返って

丹波市豪雨災害から1年を振り返りながら、今日を迎えることができましたのは、3つの大きな力が働いたと考えております。

1つ目は、被災者自身のお力です。丹波市が避難勧告を発令したのが午前2時。深夜の避難行動となりましたが、それぞれに、自分で自分の身を守る行動をとっていただいたことは被害減少の大きな要因となりました。そして、災害直後のまさに

茫然自失という状態から、ここまですべてにがんばっていただきました。市の提案にも積極的に応えていただき、素早い復旧・復興の原動力となりました。改めて感謝いたします。

2つ目は、全国各地から駆けつけてくださったボランティアの方々の力です。災害直後から、泥だらけになりながら、泥だしや家屋の片づけに奮闘いただきました。被災者の方々にとって、これほど心強い応援はなかったと思います。東北などで活躍されていたボランティアの方に専門的な支援を受け、市としても大いに励まされたところです。

3つ目には地域・自治会のお力です。大雨が降り続く中、自治会長を中心に地域住民への声かけや避難誘導など、献身的な活動を行い

いただきました。災害発生後もボランティアの方々の受け入れ準備や救済物資の配布、高齢者宅の訪問など本当に大きな役割を果たしていただいております。

復興2年目の取り組みとして、迅速な復旧工事の実施はもとより、災害関連死ゼロの継続、一時公営住宅避難者の年度内帰宅をめざし、市民のみなさまと心をつながり組んでいきたいと考えております。



災害から1年を振り返る市長

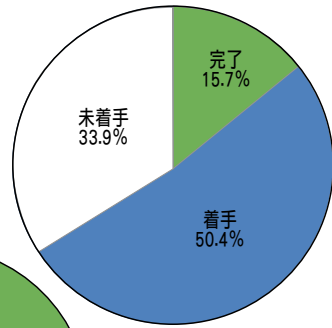
心つなぐ3つの力

～被災者・ボランティア・地域～

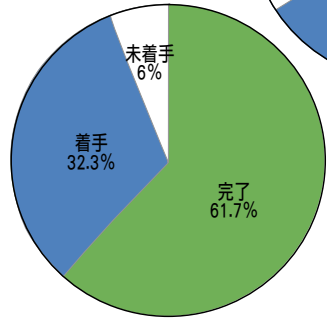
写真とデータで見る 復興へのあゆみ

■復旧・復興事業の実施状況

▶県・市連携事業
総件数：395
完了：62
着手：199
未着手：134



◀市単独補助事業
総件数：1008
完了：622
着手：326
未着手：60



■豪雨災害義援金の配分総額

(単位：千円)

	義援金配分対象	対象別配分総額		義援金配分対象	対象別配分総額
住宅被害	全壊	61,200	人的被害	死亡者	2,500
	大規模半壊	22,500		重傷者	250
	半壊	54,600		床上以上の被災児童（高校生以下）	2,880
	床上浸水（10%以上 20%未満）	28,600	その他	半壊以上の被災住宅のある自治会	9,800
	床上浸水（10%未満）	33,300			
	一部損壊	10			
	床下浸水	7,630			

義援金受付状況 2,656 件 2億2,501万4,532円
配分状況 1,402 件 2億2,327万円（平成27年8月31日時点）
※配分事務完了後の余剰金は善意銀行に寄託する予定

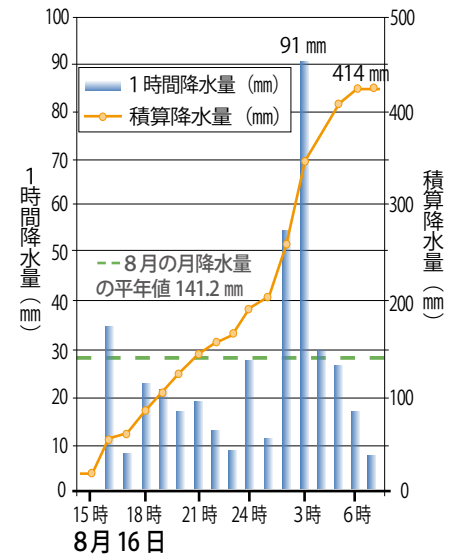
■平成26年8月16日丹波市豪雨災害被害状況

(単位：人、戸)

	人的被害		計	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊			計
	死亡	負傷					一部損壊	床上浸水	床下浸水	
柏原									9	9
氷上		2	2			2		35	307	344
青垣									14	14
春日		1	1			1	1	22	100	124
山南									3	3
市島	1	1	2	18	9	39		112	351	529
計	1	4	5	18	9	42	1	169	784	1,023

※建物については、住家（母屋）の被害件数を掲載（平成27年7月31日時点）

■災害発生時の降水量（mm）



- 8月（平成26年）**
- 16・17 丹波市豪雨災害発生
 - 丹波市災害対策本部を設置
 - 自衛隊に救助要請 市内11ヶ所に避難所開設
 - 丹波市災害ボランティアセンターを開設
 - JR福知山線・石生駅―篠山口駅間の運転再開
 - 石生駅―福知山駅間のバス代行運転開始
 - 現地災害対策本部を設置
 - 災害救援物資センターを開設
 - 通水再開（一部地域）
 - 被災者総合相談窓口の開設
 - 豪雨災害義援金受付開始
 - 舞鶴若狭自動車道 春日IC―福知山IC間無料通行措置開始
 - JR福知山線・石生駅―福知山駅間の運転再開
 - 市島支所に現地住宅復興相談所開設
- 9月**
- 1 前山小学校区の児童が通学バスでの通学開始
 - 激甚災害指定（農地など）
 - 復興本部・復興推進部を設置
 - 市内全域の断水解消
 - 臨時災害FMラジオ放送局開局
- 10月**
- 1 激甚災害指定（公共土木施設など）
 - 災害対策本部解散
- 11月**
- 16 復興祈念祭を開催（前山地区自治振興会）
 - 丹波市復興ビジョン策定
 - 前山小学校の児童が徒歩通学再開
 - 臨時災害FMラジオ放送局閉局
- 1月（平成27年）**
- 31 丹波市豪雨災害義援金第1次配分を決定
 - 2 丹波市豪雨災害義援金第2次配分を決定
 - 3 1「元気をありがとう」を開催（商工会市島支部）
 - 20 復興の合言葉「心 つなぐ」に決定。
 - 29 関西国際大学人間科学部と連携協力に関する協定「ボランティア同窓会」開催（前山地区自治振興会）
 - 31 丹波市復興プラン策定
 - 丹波市豪雨災害義援金受付終了
- 4月**
- 1「前山ボランティア会」発足
- 5月**
- 15 丹波市豪雨災害義援金第3次配分を決定
- 6月**
- 10 フィリピンの教育省職員が丹波市を訪問
 - 15 前山小学校プール開き
 - 30 徳尾東谷川砂防堰堤工事安全祈願祭
- 7月**
- 5 住まいの相談会実施
- 8月**
- 12 国道175号八日市橋再供用開始
 - 29・30 復興イベント開催
 - 「復興に向けて1年心つなぐ2days和一处」



流木が堆積し、危険な状態の河川（市島町上鴨阪）



流木を撤去し、応急復旧された河川（市島町上鴨阪）



災害廃棄物で覆われた仮置き場（市島市民グラウンド）



処理が終了したグラウンド（市内で発生した災害廃棄物 3,011.52 t）



全国から届けられた災害救援物資 1,424 件（平成26年9月6日時点）



全国から駆けつけたボランティア 18,430 人（平成27年3月30日まで）



線路に土砂が流れ込み、一時不通となったJR市島駅



崩壊した国道175号にかかる八日市橋（市島町上竹田）

声で聴く 復興へのあゆみ

今度は自分が助ける番だ

私は平成16年の台風23号で被災し、今度は自分が助ける番だと思いました。全国からの支援に感謝するとともに、私たち市民がまず被災地を応援しなくてはと思っています。(写真左：芦田祥徳さん)

私も台風23号で被災し、自宅が半壊しました。あの時はたくさんの人に助けもらったので、今度は自分が助ける番だと思いました。同じ市民として助け合いたいと思います。(写真右：大木辰史さん)

左：芦田さん(青垣地域) 右：大木さん(氷上地域)



できることはまだまだある

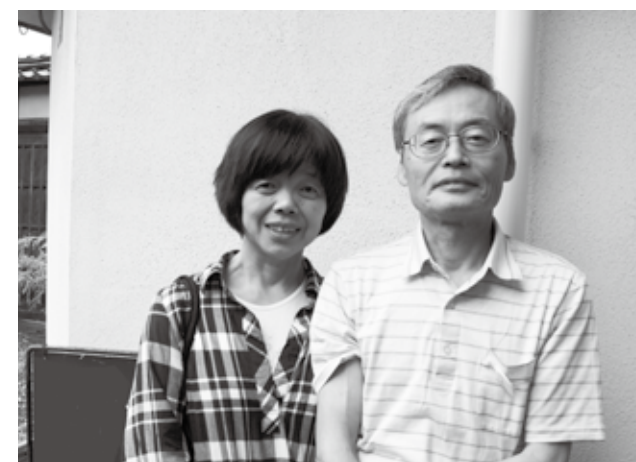
はじめてボランティア活動をしたのは9月の終わりで、正直もう遅いのではないかと考えていました。一見すると現地の生活は元に戻っているようでしたが、よく見れば家の塀・庭先、自宅から少し離れた農地など災害の爪痕が残ったままで、まだまだできることはあると確信しました。学部を超え、大学一丸となることができることは何か、丹波市に必要なことは何かを考えて、しっかりと活動していきます。

杉浦 華さん(関西国際大学人間心理学科)

心づかいと地域力に驚き

延べ5回、ボランティアに参加しました。特に印象に残っているのは十方寺。当寺にはじめてボランティアが入る時と最後の仕上げ作業に参加しました。最初は石灯籠の半分以上が土砂に埋もれた状態で、全身泥だらけで作業しました。その後見違えた姿を見て、参加してよかったと思いました。自治会の方から心づかいを受け、都会でボランティア活動をする時にはない丹波市の地域力に驚きました。

平井 眞弓さん(神戸市)



自然とともに生きるということ

ボランティアに参加した際、広島や佐用町を思うと作業車や人が少なく感じ、被災者の方がこの地を離れてしまうのではと心配になりました。1年ぶりに丹波市を訪れると、ボランティア活動をした家に生活感が戻っていて、ほっとしました。自然の厳しさを考えさせられる機会ではありましたが、丹波市の自然豊かな環境は素晴らしく、のどかな山里でよいところだと思いました。

難波さんご夫婦(姫路市)

- 応援メッセージ -

丹波市フェイスブックに寄せられたメッセージの一部を紹介します。

多くのことを学び、多くの人たちとつながることができたこの地が第二の故郷とを感じるまでに時間はかからなかった！

丹波の地でお手伝いさせていただいているうちに、掛け替えのない様々な出会いがありました！自分自身も成長させてもらったと感じています。そんな丹波が大好きです！

- 感謝を込めて -

この1年、市民・自治会・ボランティアの方々と共に全力で復旧・復興に取り組んできました。全国から寄せられた温かいご支援・応援に感謝し、丹波市モデルとして発信できる復興に取り組んでいきます。丹波市は災害の記憶を風化させることなく、復興への道を歩んでいきます。

心つなぐ

私は延べ4日だけのお手伝いでしたが、仲間に助けられ被災した家主さんにも助けられました。今では故郷のように感じます。

たくさんの人にありがとうお～、たくさんの方にありがとうお～、たくさんの方の優しさをありがとうお～。もつともつと丹波が元気になりますように！！

お盆15日に3カ月ぶりに訪丹しました。これからもちょうくちよくツーリングに行きます。

心つないで築いた復興への道 ～分担と持続～

下鴨阪自治会長 余田 善彦さん



私が自治会長を務める下鴨阪は全・半壊6件を含む、床上・床下浸水の住家被害のほかライフラインも被害を受け、1週間の断水も経験しました。甚大な被害に呆然とする中、災害直後にボランティア団体から連絡があり、翌日18日には活動が開始されました。迅速な支援は心強かったです。被害が甚大であったため、持続的な活動を確保しようという役割を分担して対応にあたりました。自治会役員だけでなく、農会長、自治会内のグループも大きな役割を担いました。被災者宅の訪問・声掛け、要望の集約、ボランティアの要請、受け入れ準備や休憩所の確保などを積極的に行いました。地域が一丸となったおかげで、早い段階で復旧に向かっていると実感しました。ボランティアの方に感謝をされることも多く、双方にとってよい環境が作れていたと思います。

大災害からの復旧・復興は何か1つの力だけでは成しえませんが、支援の手に感謝するだけでなく、地域が自ら立ち上がり、力を尽くしたことが復旧の近道になったと感じています。復興も同じことがいえると思っています。これからも一緒にがんばりましょう。

いち早い復旧、復興へ